

平成29年度羽曳野市事務事業評価シート(平成28年度実施事業)

			コード	151-01-01		
事務事業名		水質管理事務事業		事務の種類	自治事務(任意のもの)	
担当部署名		水道局工務課		連絡先	内線5042	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうおいのある住みよいまち	予算科目	会計	水道会計
	施策	5	上下水道		款	事業費用
	施策の方向	1	安全で安定した水の供給		項	営業費用
					目	原水及び浄水費
対象(誰を・何を)		羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内住民				
目的(どうしたいか)		いつでも安全で安心して利用することのできる水道水の水質の管理を適正に行う				
手段(事業内容)		水道法第4条で定められている水質基準を厳守し、取水時・送水時・末端等に至るまでの水道水について安心して利用できるよう日常的に水質の管理を行う。				

事業費

単位:千円	27年度決算	28年度決算	29年度当初予算
事業費		23,700	27,189
人件費		11,664	12,839
総事業費		35,364	40,028
うち市負担分		35,364	40,028

28年度決算主な内訳
【会費負担金】 河南水質管理ステーション運営費 23,309千円
【薬品費】水質検査用薬品 315千円

活動指標

指標名	水道水水質検査回数(回)		
指標の説明	安全で安心して利用するための水道水水質検査回数		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
			23,614

参考数値
【給水人口】 (H27) 111,225人 (H28) 111,272人
【水質検査場所数】 (H27) 市内 11地点 (H28) 市内 11地点

成果指標

指標名	水道水水質検査適合率(%)		
指標の説明	水道水水質検査適合回数÷水道水水質検査回数×100		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
			100

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	事業費は適正である。	A
	人件費削減の余地はあるか。	人件費は適正である。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

<input type="checkbox"/> 拡充・重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 縮小・統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 市民生活において「命の水」であるライフラインを担う水道事業の水質検査は、水道法に定められた水質基準を検査・管理を行うものであり、安全で安心して利用することのできる水道水を提供するために必要不可欠な事業である。水道水の安全性の確保のため水質検査は、残塩・色・匂い等の簡易検査から水道法で定められている法定検査を含め、原水・処理工程水・浄水・末端給水に対して、毎日実施している。

平成29年度羽曳野市事務事業評価シート(平成28年度実施事業)

			コード	151-02-01		
事務事業名		水道管路管理事務事業		事務の種類	自治事務(任意のもの)	
担当部署名		水道局工務課		連絡先	内線5042	
総合基本計画	施策目標	1	快適でおいしいのある住みよいまち	予算科目	会計	水道会計
	施策	5	上下水道		款	事業費用
	施策の方向	1	安全で安定した水の供給		項	営業費用
					目	配水及び給水費
対象(誰を・何を)		羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内住民				
目的(どうしたいか)		いつでも安全で安心して利用することのできる水道水を各家庭に安定して送水する管路の管理を適正に行う				
手段(事業内容)		送水管・配水管等の市内に約450kmある水道管の材料・口径・布設年度等を管理、管路の破損による漏水事故等の迅速な処置による管理等を日常的に行う				

事業費

単位:千円	27年度決算	28年度決算	29年度当初予算
事業費		64,296	99,894
人件費		18,627	19,455
総事業費		82,923	119,349
うち市負担分		82,923	119,339

28年度決算主な内訳
【委託料】 水道修繕業務等委託等 45,499千円
【路面復費】 小面積道路舗装工事 8,919千円
【材料費】 止水栓・緊急修繕用材料等 5,909千円

活動指標

指標名	漏水事故修繕件数(件)		
指標の説明	水道メータまでの配水管・給水管で発生した漏水事故の修繕件数		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
			219

参考数値
【管路延長】(H26) 454km (H27) 455km (H28) 454km
【給水戸数】(H26) 42,608戸 (H27) 42,700戸 (H28) 42686戸
【漏水件数】 H26:1310件(道路部:215件) H27:1689件(道路部:346件) H28:1660件(道路部:219件)

成果指標

指標名	漏水事故修繕率(%)		
指標の説明	漏水事故件数÷漏水事故修繕件数×100		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
			100

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	事業費は適正である。	A
	人件費削減の余地はあるか。	人件費は適正である。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

<input type="checkbox"/> 拡充・重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 縮小・統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 市民生活において「命の水」であるライフラインを担う水道事業の水道管の管理は、安全で安心な水道水を安定して提供するために必要不可欠な事業である。近年、水道管の老朽化等により漏水事故が増加している中、迅速な対応を行い、水道利用者への影響を極力抑制すると共に、漏水事故による不明水等を減らし効率的で効果的な水道事業の運営に努める。

平成29年度羽曳野市事務事業評価シート(平成28年度実施事業)

			コード	151-02-02		
事務事業名		水道施設管理事務事業		事務の種類	自治事務(任意のもの)	
担当部署名		水道局工務課		連絡先	内線5042	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある住みよいまち	予算科目	会計	水道会計
	施策	5	上下水道		款	事業費用
	施策の方向	1	安全で安定した水の供給		項	営業費用
					目	原水及び浄水費
対象(誰を・何を)		羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内住民				
目的(どうしたいか)		安全で安心して利用することのできる水道水を安定して提供するための「つくる」「送る」「ためる」施設の管理を適正に行う				
手段(事業内容)		石川浄水場・壺井浄水場・羽曳山配水場・伊賀受水場・西浦受水場・低区第1配水池・低区第2配水池・高区配水池・壺井配水池等の「つくる」「送る」「ためる」水道施設を日常的に適正な管理を行う				

事業費

単位:千円	27年度決算	28年度決算	29年度当初予算
事業費		697,766	861,674
人件費		13,140	13,999
総事業費		710,906	875,673
うち市負担分		710,906	875,673

28年度決算主な内訳
【受水費】 大阪広域水道企業団受水費 481,777千円
【委託料】 石川浄水場運転管理等委託業務等 114,794千円
【動力費】 電気料金 84,431千円

活動指標

指標名	保守点検業務委託発注数(件)		
指標の説明	安全で安定した水道水を供給するために必要な施設・設備の保守点検の発注した委託業務数		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
			24

参考数値
【総配水量】(H27) 12,252千m ³ (H28) 12,226千m ³
【施設数】(H27) 10箇所 (H28) 10箇所
【配水モニター数】(H27) 5箇所 (H28) 5箇所
【設備機器数】(H27) 1,053点 (H28) 1,069点

成果指標

指標名	水道水の提供に支障が発生した故障・事故件数(件)		
指標の説明	水道施設の停止を伴う事故・故障件数		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
			0

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	事業費は適正である。	A
	人件費削減の余地はあるか。	人件費は適正である。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

<input type="checkbox"/> 拡充・重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 縮小・統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 市民生活において「命の水」であるライフラインを担う水道事業の水道施設の管理は、安全で安心な水道水を安定して提供するために必要不可欠な事業である。施設・設備の保守点検を定期的実施し、適正に管理・運転することにより、自己水の安定した水道水の提供を実現している。

平成29年度羽曳野市事務事業評価シート(平成28年度実施事業)

			コード	151-02-03		
事務事業名		給水栓管理事務事業		事務の種類	自治事務(任意のもの)	
担当部署名		水道局工務課		連絡先	内線5040	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある住みよいまち	予算科目	会計	水道会計
	施策	5	上下水道		款	事業費用
	施策の方向	1	安全で安定した水の供給		項	営業費用
					目	受託工事費
対象(誰を・何を)		羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内住民				
目的(どうしたいか)		民間開発の配水給水管の布設や個人家屋の給水装置工事を新設・改造等の工事に、水道法及び羽曳野市水道事業給水条例に基づき、安全で安定した水道水の供給を適正に行う				
手段(事業内容)		安全な水道水を安定して各家庭に提供するため、適正な管路の配置・管径・材料等の協議・指導を行うと伴にライフラインの一役を担うことから、給水装置工事を行う業者の指定に伴う審査等を行う				

事業費

単位:千円	27年度決算	28年度決算	29年度当初予算
事業費		1,730	1,364
人件費		38,826	38,443
総事業費		40,556	39,807
うち市負担分		40,556	39,807

28年度決算主な内訳	
燃料費	95,703円
印刷製本費	113,670円
路面復旧費	1,447,912円
備品消費	12,900円

活動指標

指標名	給水装置工事申請件数(件)		
指標の説明	1年間で給水申請のあった新設、増径、口径変更の件数		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
			427

参考数値		
給水装置工事申請	新設	
平成27年度	466件	289件
平成28年度	427件	248件
指定店件数		
平成27年度	394件	
平成28年度	412件	
民間開発		
平成27年度	83件	
平成28年度	83件	

成果指標

指標名	給水装置工事申請に対する許可件数割合(%)		
指標の説明	給水装置工事申請許可件数÷給水装置工事申請全件数×100		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
			100

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	事業費は適正である。	A
	人件費削減の余地はあるか。	人件費は適正である。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

<input type="checkbox"/> 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 縮小・統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
担当部署が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 市民生活において「命の水」であるライフラインを担う水道事業の給水栓管理事業は、給水装置工事申請の受付・審査・指導、現場の施工・水質検査事務、水道工事を施工することのできる業者の指定事務、適切な水道配水管の設置協議、整備後の水道管の適切な管理のための材料指定等を行っており、安全で安心して使用することができる水道水の確保のためは、必要不可欠な事業である。他市町村の状況を確認すると、近年、団塊の世代が退職され、技術継承が難航しているおり、料金徴収委託業務と統合し業務委託として外部発注している市町村も多く見受けられる。本局においても事業の改善を目的として統廃合を検討していく必要があると考える。

平成29年度羽曳野市事務事業評価シート(平成28年度実施事業)

			コード	153-01-01		
事務事業名		管路・施設更新事業		事務の種類	自治事務(任意のもの)	
担当部署名		水道局工務課		連絡先	内線5031	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある住みよいまち	予算科目	会計	水道会計
	施策	5	上下水道		款	事業費用
	施策の方向	3	水道施設等の整備と更新		項	営業費用
					目	施設改良費
対象(誰を・何を)		羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内住民				
目的(どうしたいか)		管路や施設の整備・更新を行い、耐震化を図ることにより、水道水の安全・安心・安定の確立を目指す				
手段(事業内容)		老朽化管路及び施設の耐震化を計画的・効率的・効果的に実施すると伴に下水や大阪ガス等の地下埋設物関係者と協働し、管路の整備・更新を行う				

事業費

単位:千円	27年度決算	28年度決算	29年度当初予算
事業費		435,932	1,476,682
人件費		52,591	52,525
総事業費		488,523	1,529,207
うち市負担分		488,523	1,529,207

28年度決算主な内訳
工事請負費:428,214,441円

活動指標

指標名	水道管整備工事に伴う耐震化延長(m)		
指標の説明	水道局発注工事において耐震化された管路の延長		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		3107.4	7200.0

参考数値
○管路総延長 H27:453.5km H28:454.1km
○耐震化済み管路延長 H27:109.2km H28:112.6km
○大阪府下の耐震化率 H26:18.4% H27:19.3%

成果指標

指標名	管路耐震化率(%)		
指標の説明	耐震化済管路延長÷管路総延長×100		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		24.8	25.8

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	妥当である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	事業費は適正である。	A
	人件費削減の余地はあるか。	人件費は適正である。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

<input checked="" type="checkbox"/> 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 縮小・統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 市民生活において「命の水」であるライフラインを担う水道事業の水道の管路・施設の更新事業は、現在、管路・施設の更新工事は全て耐震化事業として取り組んでおり、安全で安心な水道水を安定して提供するために必要不可欠な事業である。今後も引き続き、ライフラインを担う水道事業として、管路・施設の更新(耐震化)工事に積極的に取り組み、災害に強い水道管路・施設の構築を目指します。

平成29年度羽曳野市事務事業評価シート(平成28年度実施事業)

			コード	153-01-02		
事務事業名		災害時体制整備事業		事務の種類	自治事務(任意のもの)	
担当部署名		水道局工務課		連絡先	内線5042	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある住みよいまち	予算科目	会計	水道会計
	施策	5	上下水道		款	事業費用
	施策の方向	3	水道施設等の整備と更新		項	営業費用
					目	配水及び給水費 他
対象(誰を・何を)		羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内住民				
目的(どうしたいか)		南海・東南海地震など大規模地震や水害等の大規模災害に備え、資材物資の備蓄・配備等および活動訓練等による準備を行う				
手段(事業内容)		管路・施設の修繕や応急給水に必要な資材物資の備蓄及び配備を行うと共に、有事の際の活動訓練を実施する				

事業費

単位:千円	27年度決算	28年度決算	29年度当初予算
事業費		1,411	3,536
人件費		3,322	3,333
総事業費		4,733	6,869
うち市負担分		4,733	6,869

28年度決算主な内訳
【備用品費】 非常用給水袋 623千円 【工具器具及び備品】 応急給水資材倉庫 739千円

活動指標

指標名	災害訓練回数(回)		
指標の説明	災害時に備えた各種訓練の回数		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		3	3

参考数値
【給水車】 1台 【給水袋】 100: 7,200袋 60: 3,000袋 50: 36,900袋 【応急給水施設】 石川浄水場 伊賀受水場 低区第1配水池 低区第2配水池 応急給水拠点 等

成果指標

指標名	給水袋の配布可能率(%)		
指標の説明	給水袋(30換算値)÷羽曳野市行政区域内人口×100		
指標データ	27年度実績	28年度実績	29年度目標
		81	84

個別評価

妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	事業費は適正である。	A
	人件費削減の余地はあるか。	人件費は適正である。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価

<input type="checkbox"/> 拡充・重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 縮小・統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止・廃止
担当部局が総合的に判断した評価の理由・課題・今後の改善内容 市民生活・ライフラインを担う水道事業として、災害発生に備え大阪広域水道企業団等の関係事業体と災害応援協定を締結し、毎年、応急給水の訓練等を実施している。また、災害時に必要となる資機材や給水袋等を計画的・定期的に購入すると伴にその購入物資を適切に配置するべく事業を積極的に実施している。